

とろろあおい品種「広12号」

大出春之・大森 武

1 は し が き

とろろあおいの品種改良は現在まで殆んど行なわれておらず、生態型を異にする在来種が特産地に散在しているに過ぎない。

島嶼部支場では1947年から品種改良に着手したのであるが、まず純系分離により形質の固定を計る目的で、各産地から在来種を取寄せ、選抜・固定を行なってきた結果育成された品種である。

2 来 歴

農林省西条農事改良実験所重井試験地（1951年に広島県立農業試験場島嶼部支場と改称）において、1947年岐阜県産在来種を素材として純系分離により選抜固定を計り、1953年「広12号」の系統名をつけ以後3ヶ年間生産力検定試験を行ない優良と認めたものである。

3 特 性 の 概 要

赤茎で茎長は短かく典型的な矮性型であるが、葉柄がやや長いので外観はやや大型に見える。根直径大きく、平均根重も大で根部収量は優れているが支根がやや多い。根型は整一で外観良く、又比粘度高く品質は優良である。

4 適地および栽培上の注意

瀬戸内島嶼沿岸部のような乾燥地帯に適す。ことに短茎のため間作作物として好適である。

5 試 験 成 績

第1表 試験成績

品 種 名	試験年度	茎長 (cm)	節数	根直径 (cm)	根 重 1本当 (g)	10㎡当り (kg)		対標準比	根型 整否	支根 多少	比粘度
						全 重	根 重				
広 1 2 号	1953	-	-	-	50.3	1.723	953	119	整	中	3.71
	1957	10.2	8.5	1.83	30.5	868	615	122	整	中	
	1958	10.7	9.9	2.03	27.0	893	624	102	整	中	
	平均	10.5	9.2	1.93	35.9	1,161.3	730.7	114.3	整	中	
在 来 種 (標準)	1953	-	-	-	47.3	1.466	799	100	否	中	2.75
	1957	13.2	8.6	1.45	25.6	-	504	100	否	中	
	1958	16.9	9.6	1.88	25.7	935	612	100	否	中	
	平均	15.1	9.1	1.67	32.9	1,047.8	638.3	100	否	中	

6 育成従事者

第2表 育成従事者

年次	世代	育成従事者
1947	1年目	大出春之 岡野 靖
1948	2年目	" 岡垣 脩
1949	3年目	" "
1950	4年目	" "
1951	5年目	" "
1952	6年目	" "
1953	生産力検定試験	" 大森 武
1957	"	" "
1958	"	" "

Summary

On Breeding of "HIRO-No. 12" a New Variety of Tororoaai,

Hibiscus manihot L.

Haruyuki ODE and Takeshi OMORI

1. This variety was bred up from Gifuzairai by pure line selection.
2. Plant type is dwarf. It has large yield and high viscosity.
3. This variety is well adapted for the cultivation in dry regions such as islands in the Seto Inland Sea.